

早くから絞るか、広く試すか 文章A

年 組 番 名前 _____

基礎を固めるクラス 偏差値のめやす 40～50程度 高2

この紙のゴール：同じ話題の2つの文章を読み、どこで意見が分かれているかを言えるようにする / 目安20分（本文＋設問）。本文はこの教材のための書き下ろし（初見用）です。

[1] If you want to become very good at something, when should you decide what it is? One answer is: as early as you can. Skill is made of hours, and hours are easier to collect when you start young.

[2] Hard skills are built from small parts that must become automatic. A pianist does not think about which finger to move next. Making a movement automatic takes years of practice. A student who decides at twelve has six more years than a student who decides at eighteen.

[3] An early choice also gives you people. Once you join a team or a band, you spend your days with people who are a little better than you, and you copy them without noticing.

[4] Some say that children may choose the wrong thing. That is true. But a wrong choice made early is cheap. At twelve, changing your mind costs a year. At twenty-five, it can cost much more.

[5] Others say that early specialists often stop. They train too hard, get hurt, or lose interest. This is a real problem, but it comes from how the training is run, not from when it began.

[6] So the advice is not "choose forever." It is "choose now, and stay long enough to become good." A choice can be changed. Lost hours cannot be returned.

〔語注〕 automatic＝考えなくてもできる specialist＝1つに絞って取り組む人

本文には自由に書き込んでください。つなぎの語（But / Yet / however）に印をつけ、段落の左に「認める／切り返す／例／主張／提案」とメモすると、大問Iがそのまま解けます。

早くから絞るか、広く試すか 文章B

年 組 番 名前 _____

文章Aと同じ話題について、Aを読んだ別の書き手が書いたものです。Aのどこに反対しているかを探しながら読みましょう。

[1] The advice to choose early sounds sensible, but it describes only the people we happen to hear about.

[2] We hear from the ones who chose at twelve and are still playing at thirty. We do not hear from the much larger number who chose at twelve, trained for six years, and stopped.

[3] The advice also leaves out one question: how does a child know what to choose? A twelve-year-old cannot compare things they have never tried. The years spent trying many things are not wasted years before the real training.

[4] Hours do matter. But hours spent on the wrong thing are hours too, and they are much harder to notice.

〔語注〕 sensible=もっともらしい・理にかなった

Aと同じところに線、ちがうところに波線を引きながら読むと、対立点を答える設問がそのまま解けます。



早くから絞るか、広く試すか 設問

年 組 番 名前 _____

文章A・B（前の紙）を見ながら答えてかまいません。

大問1 **それぞれの主張** AとBの筆者が、いちばん言いたいことを日本語で書こう（各20字以内）。

(1) 文章Aの筆者の主張 **思考・判断・表現**

4点

(2) 文章Bの筆者の主張 **思考・判断・表現**

4点

大問2 **対立点** 2人の意見が分かれているのはどこか。合うものを選ぼう。

(1) AとBが分かれているのは、どの点についてか。 **思考・判断・表現** 答え（ ）

3点

- ア 練習の時間が多いほうがよいかどうか
- イ 早く始めた人が上手いのは、早く始めたからかどうか
- ウ けがをしないように練習すべきかどうか
- エ 才能と練習のどちらが大事か

(2) Bの[2]段落は、Aのどの部分に対する反論か。 **思考・判断・表現** 答え（ ）

3点

- ア Aの[3]段落（仲間ができる）
- イ Aの[5]段落（練習のしすぎ）
- ウ Aの[1]～[2]段落（早く始めた人が上手い）
- エ Aの[6]段落（決め直してよい）

大問3 **読み取り** 本文の内容に合うものを選ぼう。

(1) Aが「早い誤りは安い」と言うのはなぜか。 **思考・判断・表現** 答え（ ）

3点

- ア 若いうちは練習の質が高いから
- イ 若いうちなら、やめて別のことを始めても失うものが少ないから
- ウ 若いうちは失敗しても気にしないから
- エ 若いうちは選べる道が少ないから

(2) 下線のない語 *sensible* (Bの[1]) に、いちばん近い意味は。 **知識・技能** 答え（ ）

3点

- ア まちがっている
- イ もっともらしい
- ウ めずらしい
- エ むずかしい

早くから絞るか、広く試すか（基礎） | 解答と採点

解答 選択問題

大問2 対立点		
(1)	イ	AもBも練習時間が大事だという点では一致している（Bの[4]）。分かれるのは、早く始めた人が上手いという観察から「早く始めたからだ」と言えるかどうか。
(2)	ウ	Bの[2]は「続けている人の話しか聞こえていない」という指摘で、早く始めた人が上手いという観察そのものの見え方を疑っている。
大問3 読み取り		
(1)	イ	[4]段落。12歳なら1年、25歳ならもっと大きい、という比較がそのまま根拠になっている。
(2)	イ	直後に but が来て「しかし、それは…だけを述べている」と続く。いったん認める語なので、否定的な語は入らない。

記述の採点 模範解答と部分点の刻み

刻みは答案を見る前に配点を決めておくための表です。採点しながら基準を作ると、最初の10枚と最後の10枚で線が動きます。

大問I(1) 文章Aの筆者の主張 4点

早く1つに決めて続けたほうがよい（16字）

配点	その点を与える条件
2点	「早く決める・早く1つに絞る」が入っている
2点	「続ける・長く続ける」が入っている

大問I(2) 文章Bの筆者の主張 4点

早く決める前に、いろいろ試す時間がかかる（19字）

配点	その点を与える条件
2点	「いろいろ試す・比べる」が入っている
2点	それが決める前に必要だ、という順序が出ている

「早く決めるのは反対」とだけ書いた答案は2点。Bは決めること自体は否定していない（[3]で「早い決定ではない」と言っているだけ）。

早くから絞るか、広く試すか（基礎） | 出題のねらい

出題のねらい 定期テストに移すときの観点マップ

対立点を特定する力は、長い英文を1本読み切る体力とは別のものです。2つの文章が「反対のことを言っている」のは誰でも分かりますが、**どの一歩で分かれたのか**を1文で言えるかどうかで差がつきます。Bは「早く決めるな」と言っているのではなく、Aの「早く始めた人が上手い」という観察から「早く始めたから上手い」という結論へ渡る一歩に反対している—ここを取り違えた答案が最も多く出ます。

型	観点	テストでの使い方
それぞれの主張（記述）	思考・判断・表現	2つの文章の主張を1文にたたむ。3版共通の骨格で、ここが書けないと以降が全部崩れる
対立点の特定	思考・判断・表現	段3の芯。基礎は選択、標準・発展は記述。どの一歩で分かれたかを言えるか
論の運びの読み取り	思考・判断・表現	譲歩から切り返しへの型と、Bがどの段落に反対しているかの対応づけ
語句の意味・下線部和訳	知識・技能	基礎・標準は文脈からの推測、発展は和訳。構文と語彙の精度をここで測る
自分の考えを書く（英語）	思考・判断・表現	発展版のみ。両方にふれて50語。読み比べを表現につなぐ出口

大問I（それぞれの主張を1文で）は3版とも同じ問いです。配り分けでも、ここだけは同じ力を測っています。

3つの版の使い分け

論題と対立の中身は3版共通で、変えているのは英文の長さと答え方です（基礎＝主張を選ぶ／標準＝日本語で書く／発展＝日本語の記述に英語の意見を1問足す）。同じクラスで配り分けでも、答案は同じ観点で並べて読めます。